

平成28年度 森林動物研究センターシンポジウム

－開催報告－

1) 来場者数

139名

※内、関係者 20 名、報道関係 2 名（朝日、NHK）

（参考）昨年度、国際シンポジウムの来場者数 228 名（内関係者 50 名）

2) アンケート結果（一部抜粋）

2-1) 各内容に関するコメント

①ツキノワグマ地域個体群の極熊とヒトの歴史～駆除から保全管理へ～

- ・人とクマの関係について、今後も研究を深めていただきたい。
- ・管理政策立案の難しさについて少しわかってきました。
- ・本県以外での発表が新鮮でした。ヒグマ計画が、まだ樹立していないことに驚きました。

②ツキノワグマ地域個体群の遺伝的特徴と分布拡大

- ・クマの捕獲・放獣の実際を臨場感をもって聞けた。保護するコストについて考えさせられた。
- ・北近畿個体群の動向について多くの知見を得ました。
- ・確実に分布が広がっていることが目に見えて理解できた。

③個体のモニタリング情報に基づくツキノワグマ個体数動態の推定

- ・個体数推定の説明◎。推定方法にも良し悪しがあるとおもうので、複合的に行ってもいいのかな？
- ・統計処理はなかなか難しい。でも選挙速報との比較は分かり易かった。
- ・クマはいったい何頭いればいいのか、難しいです。

④ドングリの豊凶からツキノワグマの出没を予測する

- ・自然の中では、因果関係が随所にみられる例として改めて気付かされました。
- ・大変面白い成果。今後も継続を期待しています。
- ・予測したうえで、いかに出没を抑えるか。

⑤20年間のツキノワグマの保全を踏まえた今後の取組

- ・時系列、対策説明が分かり易かった。持続的対策。
- ・対策は基本が重要ということがよくわかりました。
- ・すべての研究発表の統括として、とても良かったです。

⑥パネルディスカッション

- ・疑問に思っていて、突っ込んだ話が聞けたのでよかった。
- ・質問票が参加者に配布された点が良かった。
- ・誠実な説明・回答をいただいた。

2-2) 次回以降に取り上げてほしい内容、テーマ

- ・アライグマ、ヌートリアなどの外来種について。生態や捕獲対策、在来種への影響など（6件）
- ・シカ、イノシシについて。生態と個体数、利活用など（5件）
- ・森林環境について。里山管理と野生動物の関係について、開発と保護のバランスなど（3件）
- ・サルについて。保全管理の手法など（2件）
- ・鳥類について。コウノトリ、カモ、ウなどの捕獲や調査状況について（2件）

2-3) その他シンポファイルに関する意見

①シンポジウムに関する意見

- ・美術館入口で、クマの保護を訴える団体がいた。今回、そういったグループに発表か発言の機会があっても良いと思った。

②研究、その他意見

- ・共存に関する県民への広報が必要（生活ごみ、登山のマナー等）
- ・対策に対して定量的に効果を明確にし、人とクマが共存する戦略や方針を立てられているのか。
- ・裏六甲の山林でも荒廃が進んでおり、手入れがありません。産業として成立するようなシステム作りはどうでしょうか。

③感想

- ・センターの研究成果に感心しました。クマに限らず、動物研究センターは各県に必要と思います。
- ・今まで、狩猟者の経験等でしか知りえなかった生息数等が、モニタリング調査により科学的に推定できるようになったことは、大きな成果と思います。今後も調査結果を知る、シンポジウムの開催をお願いします。

④その他

- ・クマの管理施策に関する批判（クマ愛護寄りの意見） 4件